

Support 21 

Vol.54 2014.7

Newsletter

今回で 48 回目を迎えます！

外国にルーツを持つ学生が集う研修会の開催！

「難民を助ける会」の時代から始まった外国にルーツを持つ学生のための研修会は、この度 48 回を数えます。研修会に出席した学生からは、「外国にルーツを持つ自分について考えを深められた!」、「悩みを打ち明けられる親友に出会えた!」、「将来のパートナーに出会った!」といった数々の喜ばしい報告を聞いております。学生が自身の出身国や生い立ちを隠すことなく話せる場として、また開催地域の日本人の方々にも、難民問題をはじめ、外国出身者やその子弟が抱える悩みについて知っていただく機会となっています。これまでサッカー大会、ぶどう狩り、バー

ベキュー、遠足やスキー、宿泊研修会等、様々なイベントが実施されてきました。

今年度も、高校生から大学院生まで 12 ヶ国に繋がりのある学生が日本全国から集まり、日本人ボランティア含め、総勢約 70 名の活気溢れる夏期研修会が行われます。

日程: 2014 年 8 月 16 日 (土) ~ 8 月 18 日 (月)
2 泊 3 日

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
(東京都渋谷区)

景品を募集しております!!

夏期研修会の夜の部では全員参加のゲーム大会が行われ、景品を賭けて大変盛り上がります。毎年皆様からいただくお品物を景品として活用させていただいています。

＜例＞ 図書券、クオカード、グルメカード、音楽ギフト券、映画券、旅行券、テーマパーク招待券 (ディズニーランド&シーのチケット、水族館、動物園等)、レストラン食事券、Tシャツ (新品) 等



2013 年度 宿泊研修会

インドシナ難民 第1・第2世代と、その家族のための語らい旅行

インドシナ紛争の影響で、生まれ育った祖国を離れた難民の方が、日本に定住してから既に 35 年以上の月日が流れました。

その多くは、日本語の習得に苦勞を覚えながらも生計を支え、子育てを終え、日本で老後を迎えようとしています。

ご自分の人生を振り返って「今」思うこと、祖国や日本への想いなどについて語り合う場を設けます。

今回は、25 年以上前の支援生 OG を協力者に迎え、主にベトナム難民の第1・第2世代とそこそご家族を対象に実施します。

◆ **実施日:** 2014 年 9 月 6 日 (土) ~ 7 日 (日) 1 泊 2 日

◆ **場 所:** 箱根周辺

◆ **参加者:** ベトナム難民として 20 年以上日本に住む人と、そのご家族 50 名

◆ **目 的:** 離れて暮らす同郷の参加者の再会・交流と、高齢化を迎えている第1・第2世代の方の「声」を聞き取ること。



52名の生活支援生が決定しました!

さぼうと21では皆様のお力添えのおかげで、「難民を助ける会」の時代から、のべ3600人以上の支援生を社会に送り出して参りました。今年度も52名の生活支援生と寄り添い、学生たちの日本での勉学、そして将来を応援していきます。

国籍	人数	学校
アルゼンチン	2名	専門1名、院1名
カンボジア	1名	大学1名
中国	5名	高校2名、大学2名、院1名
ナイジェリア	2名	高校1名、大学1名
ブラジル	1名	大学1名
ベトナム	24名	高校13名、専門1名、短大3名、大学7名
ペルー	3名	高校1名、専門1名、院1名
ミャンマー	3名	高校3名
無国籍、日本に帰化（元アフガニスタン、元カンボジア、元ベトナム、元ミャンマー）など	11名	高校4名、専門1名、大学6名

生活支援プログラム

高校生・専門学校生・大学生対象

支援生：44名

支給年額：1人当たり60,000円～
360,000円（予定）

坪井一郎・仁子学生支援プログラム

大学生（3年次以上）・大学院生対象

支援生：8名

支給年額：1人当たり480,000円～
840,000円（予定）



「支援生のつどい」で、会場からの質問に笑顔で答える支援生

就学を支える「生活支援金」を月々支給する他、研修会などで行われる面談を通じて、生活状況、進学や就職に関する相談にも応じています。

キャリア支援もしています!

今年度も、生活支援プログラムの受給者や学習支援室の学生を対象に、就職などに活用できる英語検定やTOEIC、TOEFLといった資格試験の受験料を支援する制度を実施しています。面談を通して進路相談に乗ることで、必要な資格試験の受験を促し、学生たちが目指すキャリアの実現をサポートします。

また、初めての取り組みとして、新聞の定期購読支援を開始しました。インターネットの普及により、

新聞や本を読む習慣が希薄になっていることから、紙媒体の新聞を読むことに慣れる、社会への関心を高めるといったことを目的として実施しています。今回は試験的な取り組みとして2014年6月から8月までの3か月間の実施予定となっています。



津波に遭った石巻市北上町吉浜で、伝統のお祭りが復活 《 2014 年 4 月 27 日 》

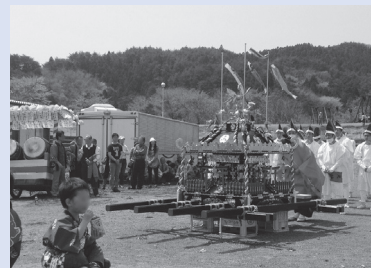


御霊移しの儀の後、200kg 超の御神輿を上から吊りながら、「じょーさい」（除災）のかけ声とともに109段の神社の石段を下ります。

宮城県石巻市北上町は、東日本大震災による津波で壊滅的な被害を受けました。吉浜地区は災害危険区域に指定され、震災以降多くの方々が離れられています。サンキョー株式会社様のご支援と姉妹団体 AAR Japan [難民を助ける会] の協力により、2013 年 12 月、15 台の防犯灯を吉浜に設置。人口が減った集落に明かりが蘇ったと喜んでいただけました。その際、地域伝統の「熊野神社神輿渡御」が、少子化により 2001 年以降途絶えていると聞き、お祭りの復活を支援することになりました。13 年ぶりのお祭りには吉浜を離れた方々も集まり、久しぶりの再会の場となりました。



「神輿渡御」の途中、御神輿の前と後ろから押し合い、もみ合う担ぎ手（モミカタ）たち



北上町十三浜のにつこりサンパーク仮設住宅も訪れました。

今年も学習支援室「実習生」奮闘中!

2012 年度から、さぼうと 21 の学習支援室では大正大学の「実習生」を受け入れています。大正大学人間学部人間環境学科、のびのび子どもプロダクトコースが、学生の学びの場を、学内だけでなく、それぞれの領域の現場に求めて行っている「フィールドワーク実習」へのご協力です。さぼうと 21 の学習支援室は「インターナショナル」というジャンル（領域）に関心をもつ学生の方々が参加してください。

協力関係がスタートして、今年度は早くも 3 年目。春学期がスタートし、平井美菜さん、内野一歩（はじめ）さん、鈴木喬さんの 3 名が、毎週土曜日の学習支援室活動日を中心に、実習に通ってきてくれます。

平井さんは昨年度に引き続き 2 回目の実習。「子ども達と関わることによって、教えることの楽しさを学びたい。一人ひとりに対する対応の仕方、その子に合った勉強の仕方と一緒にみつめていきたい。会話の中でも、話す速度や言葉遣いに気をつけて取り組んでいきたい」と関わる方々と誠実に対していこうという姿勢が言葉の端々にうかがわれます。



内野さんは今年度初めての参加。「外国出身の方々とコミュニケーションを上手にとれるようになりたい」「日本在住の外国出身者の方々の来日の経緯や悩みを、皆さんと一緒に活動する中で知っていきたい」と呟々と語る姿が印象的です。

鈴木さんは、小学生の頃、同級生の日系ブラジル人の子が、クラスメイトとうまくやっていけなかったという記憶から、さぼうと 21 での実習を強く希望してくれました。

大正大学で彼らを担当する鵜川晃先生は、「自分たちの生まれ育った日本はどのように見えるのか、また自分たち以上に日本のことを考えてくれている人が居ることを感じてほしい」と、学生に、そして支援室に、大きな期待を寄せくださっています。

教材のコピーや入力作業、支援室の机並べや清掃、子ども達とのおしゃべり、学習支援のサポートなど、その全てが「外国の方と時間や空間を共有していく」豊かな経験となることを願っています。

実習生のおかげで、学習支援室にはいつも以上に、元気な「おはようございます!」の声が、飛び交っています。



今年度も多様な取り組みに挑戦!

文化庁事業採択 「外国人住民・日本人住民 共育ち日本語教室展開事業」

ここ数年「生活者としての外国人」のための日本語教育」が注目されています。さぼうと21は、1979年「インドシナ難民を助ける会」創設の時代から、一貫して「生活者」に向き合い、その自立支援を願って活動しています。

昨年度の文化庁事業では、「生活場面切取動画」「付属紙教材」「翻訳付健康カード」などの新教材も作成。それらの教材はホームページを通じて、より多くの方々に自由に使っていただく予定です。

今年度は「日々の暮らしを豊かにしよう!」を事業の合言葉として、難民等在住外国人向けワークショップを充実させていきます。「やっぱりさぼうと21の取り組みはいいね」と言っていただくことも多くなりました。今年度も気を引き締めて、「日本語教室開催」、「人材養成」「日本語教材作成」に取り組み、「共育ち」を楽しんでまいります。



昨年作成した紙教材は、内容もイラストも手作り感いっぱいの「やさしい」教材



初顔合わせとは思えない、息の合った今年度の運営委員の面々

さぼうと21で「働く」私たち

日頃より、当会の活動にお力添えを賜り、心より御礼申し上げます。

ここでは、さぼうと21スタッフをご紹介します。

さぼうと21の業務は、日本での生活に関する相談対応や、各地に暮らす外国出身学生（高校生から大学院生）への生活支援金の支給や研修会の実施、土曜日に開催している学習支援室の運営や、会費・ご寄付をお寄せくださる支援者の皆さまへのご連絡など、多岐にわたります。

新年度に入り、新しいスタッフも加わりました。今年度はこのメンバーで業務に取り組んでまいります。何かありましたら、お気軽にご連絡ください。



高橋事務局長とスタッフ



学習支援室 スタッフ

左から 福田 泉・長島 みどり・高橋 敬子・中谷 多賀子・西山 ひろみ / 矢崎 理恵・吉田 早慧子



Newsletter

Support21 Social Welfare Foundation

Vol.54 2014.7

社会福祉法人 さぼうと21

理事長 吹浦 忠正

社会福祉法人さぼうと21は...

日本国内で生活するうえで困難をきたしている難民やその家族、在日外国人および元外国籍の人々の相談に乗り、また自立支援活動を行う社会福祉法人です。認定NPO法人難民を助ける会(AAR JAPAN)を母体に、その国内事業を受け継ぎ、厚生省(当時)認可の社会福祉法人として1992年に設立されました。

「困った時はお互い様」をモットーに、日本国内で政治・宗教に中立な立場で活動しています。学業継続のための経済支援を中心に、生活困窮者に対する幅広い生活支援を実施しております。

私たちの活動を応援してくださる方を求めています!

■会 員：法人会費 50,000円
個人会費 5,000円

■ご寄付：随時受付

会費・ご寄付とも税法上の優遇措置が受けられます

◆会費・寄付のご送金口座◆

ゆうちょ銀行	振替口座：00180-7-25470 加入者名：社会福祉法人 さぼうと21 ※通信欄に会費または寄付とご明記ください
三井住友銀行	目黒支店(普) 851872 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち
みずほ銀行	目黒支店(普) 1180279 名義：社会福祉法人 さぼうとにじゅういち ※銀行振込み後は事務局までご一報ください

お問い合わせ

住所： 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-12-2ミズホビル3階	
TEL： 03-5449-1331	FAX： 03-5449-1332
E-mail： info@support21.or.jp	URL： http://www.support21.or.jp
印刷会社： 秋田協同印刷株式会社	編集・発行： 社会福祉法人 さぼうと21

